

令和5年度 学校評価自己評価表 (評価計画・中間評価・最終評価)

学校の教育目標	未来志向で考え行動・挑戦する児童の育成 【めざす子供像】 ○自分で考え、行動できる子 ○相手の立場を理解し、互いに協力し合う子 ○見通しをもって、挑戦しようとする子 ○学校や地域を愛する子	経営理念	チーム風早小で進める学校運営 ① チャレンジ……………目標に向かって挑戦する児童・教職員 ② チェンジ……………アンテナを張り、時代を読み、変革する教職員 ③ コミュニケーション……………学校・家庭・地域が一体となり前進するコミュニティ・スクール
---------	---	------	--

評価計画					自己評価				
中期経営目標	短期経営目標	評価項目・指標	目標値	目標達成のための具体的な方策	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析
					10月	2月			
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	【研修テーマ】 「わかった」「できた」が実感できる算数科の授業づくり ～低学年段階からのつまずきの把握・個別の学習支援を通して～	80% ★	・外部講師を活用し、校内授業研究年間1人1回以上行う。 ・各学力検査等の結果から改善計画を各学年で立て、実践する。	83%	86%	107%	3	模擬授業や授業研究を通して、外部講師の助言を聞きながら、個別の学習支援について協議した。また、達人テストや学力調査の結果から改善計画を各学年で立て、実践した。標準学力調査(算数)の平均正答率を上回った学年は、6学年中5学年であった。
	ICTの効果的な活用	ICTを効果的に活用した授業を週1回以上行う。(教職員の肯定的評価85%以上)	85%	・ICTを活用した校内研修を年10回以上行う。 ・児童に対して、市主催のICTコンペ、タイピング大会への参加を促す。 ・効果的な活用事例を蓄積し、共有化する。	100%	100%	117%	4	・校内研修は10回行うことができた。実技の研修も何度かできた。(タイピング・chatGPT・ゲートルスライド) ・市のタイピング大会の基準値を超えた児童が7名から42名に増えた。 ・実践の共有化という点ではまだ十分ではない。来年度は市主催のICTコンペの全部門への参加、広域オンライン授業への参加を100%に近づけたい。
豊かな心	向上の変容をめざす集団づくり	風早プライドの徹底(挨拶・返事)	85%	・全校朝会で、児童会による振り返りを行う。 ・学級で月ごとの振り返りを行う。 自己評価 ……毎日 相互評価 ……月1回 →肯定的評価85%以上	92%	97%	114%	4	毎月学年の振り返りを放送することによって、守ろうという意欲の高まりが見られた。児童会を中心とした、毎週水曜日のあいさつ運動によりあいさつを進んで行う児童が目標値85%を上回る97%であった。CSルーム前に地域の方の名前と顔が分かるボードを設置したが、学校外で自ら進んであいさつをすることができると答えた児童は全体の88%と中間評価と同じであった。
	読書習慣の定着	本を読むことが好きな児童の自己評価85%以上 年間目標読書量(60冊以上)を達成した児童の割合80%以上	85% 80%	・毎朝、15分間の朝読書を行う。 ・読んだ本を記録する。(読書貯金) ・図書祭で、友達におすすめの本を紹介する。 ・年間目標読書量を達成した児童を表彰する。	74% 62%	86% 70%	101% 87%	3	朝読書の徹底や図書委員会の取組により、本を読むことが好きな児童の割合が増え、本を借りに来る児童も前年度より倍以上に増えている。しかし、読書量の多い児童と少ない児童との差が大きく、学年によっても読書量にばらつきがあるため、各学級で図書室に行く機会を増やしたり、読んだ本は記録するよう声掛けをしていく必要がある
健康でたくましい体	成長を実感できる体力・健康づくり	運動に係る自己記録の更新	80%	・水泳、なわとび、持久走の各カードを合わせた挑戦カードによる記録更新を目指す。(前年度、計測1回目の記録を更新) ・「ボール投げ」の記録計測年間2回実施(6月、2月)各自で目標を設定し、記録の更新を目指す。	76%	78%	98%	3	前期から継続して挑戦カードを活用して自己記録の更新を意識させた。また、体育朝会を行い、技能面での向上を図った。その結果、自己記録を更新できた児童は78%、「目標をもって取り組むことができた児童」は、100%になった。来年度も、めあてカードを継続して活用していく。また、技能面が伸びるよう、効果的な指導を体育の授業に取り入れる必要がある。
	基本的な生活習慣の向上	「自分が決めた就寝・起床時刻を守る」児童の割合80%以上 「自分が決めたゲーム遊びの時間、メディア視聴の時間を守る」児童の割合80%以上	80% 80%	・生活習慣アンケートを前後期1回ずつ実施する。 ・保健日よりや懇談会等を通して、「睡眠の大切さ」や「メディアとの付き合い方」について保護者に呼びかける。	76% 91%	73% 91%	91% 114%	3	1・2回目の結果から就寝時刻が課題であった。就寝時刻を守る意識が低いことや毎日の就寝時刻が定着していないことが分かった。生活状況を把握し、個別の声掛けを行っていく必要がある。また家庭での環境が大きく影響し、協力が不可欠となるため今後も通信や懇談会等で協力を得るとともに保健指導を繰り返して行く。
開かれた学校づくりと働き方改革	コミュニティスクールの充実による学校、地域への愛着と誇りの育成	母校・地域に愛着と誇りをもたせる「地域貢献型的生活科・総合的な学習の時間」の推進	90%	・MTの招致を各学年2回以上実施する。 ・地域との連携活動を各学年1回以上実施する。 ・C.Sの校内研修を実施する。 ・C.S連絡会の定例化と、C.S推進員や地域学校協働活動推進員との連携を行う。	95%	95%	106%	3	・若干の減少が見られたが、目標値の90%以上を達成した。(96.4%) ・各学年が生活科や総合的な学習の時間で、MTや施設連携を多数実施することができたため、アンケートの肯定的回答の理由につながった。 ・地域協力者が固定化している。外部発信を続ける他、ボランティアの種類・数を増やし、学校に行ってみたくと思えるよう工夫する。
	働き方改革と業務改善の推進	教職員が健康で働きがいのある職場づくり	90%	・平日の最終退校時刻を18時、水曜日は、原則定時退校とし、超過勤務を毎月45時間未満とする。 ・業務改善、業務削減に係る意識調査を7月、12月、3月に実施し、企画委員会等で協議し、実施できることを全職員の共通認識のもと取り組む。	100%	100%	111%	4	前期に引き続き働きがいに関する意識調査を実施したところ、働きがいがあると感じている教職員は100%であった。今後も風通しの良い職場づくりを全教職員で取り組む。職員の超過勤務時間の平均は、32時間44分(1月末)であった。子供と向き合う時間を確保できていないと感じている職員もおり、日課表等の見直しをするなど共通認識のもと取り組む。

評価★ 4…目標を上回って達成(5/6学級以上) 3…目標どおりに達成(4/6学級)
2…目標をやや下回って達成(3/6学級) 1…目標をかなり下回って達成(2/6学級以下)

評価 4…目標を上回って達成(110%～) 3…目標どおりに達成(90%～110%)
2…目標をやや下回って達成(70～90%) 1…目標をかなり下回って達成(~70%)